

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak  
LICENSED PRODUCT

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black

不破侍左馬  
名古屋山三

昔語箱裏表紙

二

遠13  
1884  
2

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19  
JAPAN  
Tajima

へ遠18  
1884  
2

清

なみ

胸冷魂むねひやまへ

さへて。黑暗地獄の罪人が。創樹木の竹ふくもぐど。六郎の

ひまふりて。仕損せまふと心せうれ。衣ふたりよる 蘭麝の薫る方と心を

まりて。ひまふりて。斬つぐれば。手ごころへ。牙とさうぶ。仕はし

のりさるふありて。背後あり。杉戸ふんと。かゝありて。唾と倒る時

奥ゆくたごころ。燈火の光り。あきらめ。あきらめ。あきらめ。あきらめ

無慙やま左袈裟。斬るげらと。鮮血泉のこぼれ。漏流て。あきらめ

赤小染り。手足とあきらめ。歯とあきらめ。あきらめ。あきらめ。あきらめ

のりさる。二八郎せめて。苦痛とあきらめ。あきらめ。あきらめ。あきらめ

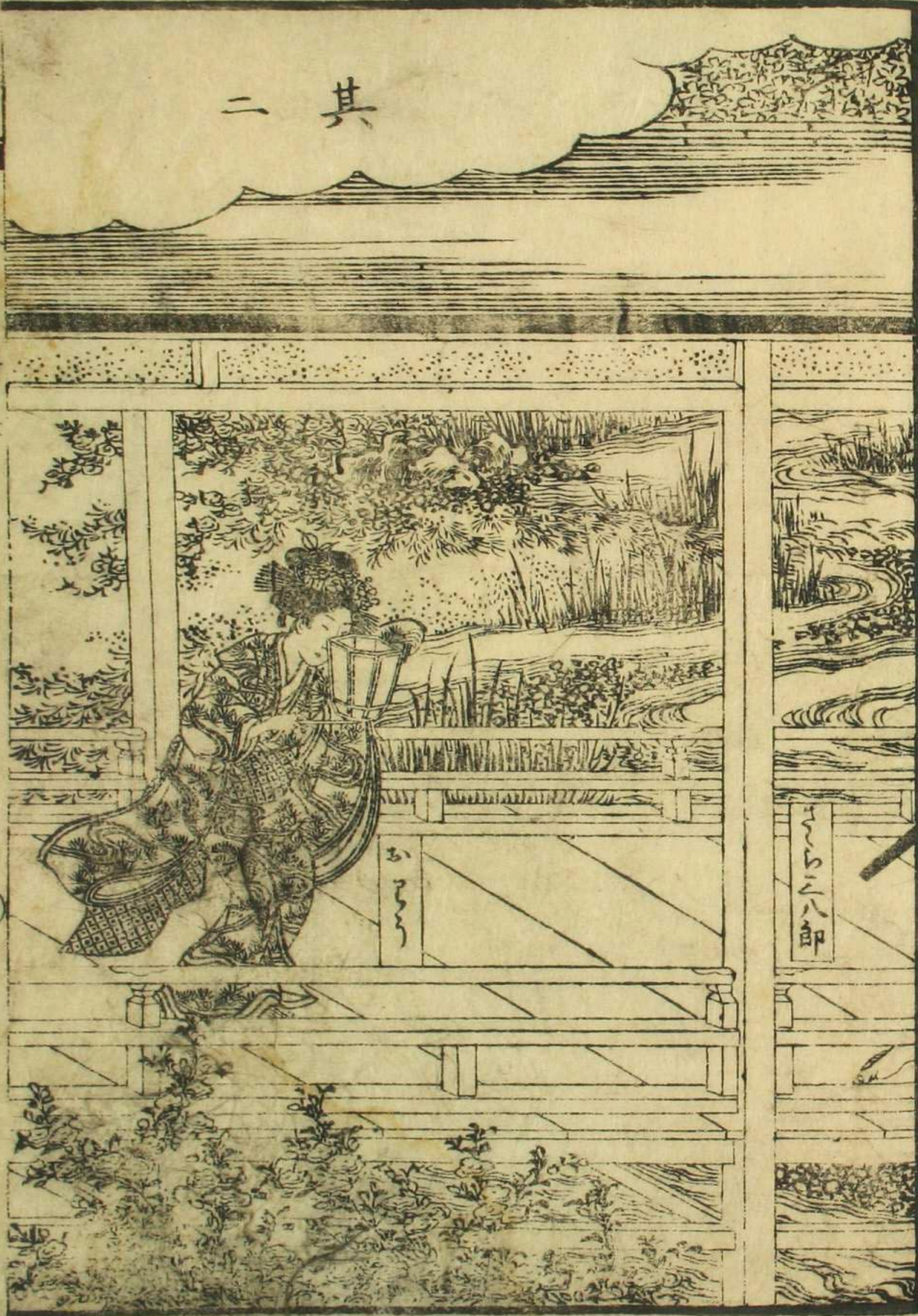
刀とさうとあきらめ。嗚呼。悲哉。嗚呼。痛哉。十七歳と一期と。黄泉の

鬼とあきらめ。あきらめ。あきらめ。あきらめ。あきらめ。あきらめ。あきらめ

袖引らきりて。血刀ふらぬ。肌はくつ

六郎の遺書

其二



くろ八郎



藤波

ろげ。已すで小こ腹はら小こつきたんとして。俄あわ小このひあわ〜たる。いあ〜今いま  
死しるべき命いのち小この〜人ひとの足あしを止めぬこと幸さいわいある。不破ふた道みち犬いぬが為ため作つく  
お家うちと乱みだれまじりあり。これよりとて小こ出で奔はなれ。權けん令れいとあるがて  
よとあがる主しゅ君くんの目め代しろとあり。彼かれが惡わる意いと見みあつり。其その後のちは友とも波なみが  
所ところ録りくの者ものの恨うらみの刃やいば小この〜死しんを武ぶし士しの為ためと〜心こころと〜め  
て死し骸がら小こひふ。忠ちゆう義ぎの為ためと〜科かり死しおこ〜無む代しろ小こ殺ころ  
せ〜不ふ便べんと〜。伊い子こも刃やいば小この〜冥めい途と小この〜分ぶん説せつせんと學がくと  
合あひ。南なん無む阿あ弥い陀だ佛ぶつ〜と。口くちの裏うら小こ回へ向き〜。退たいま〜と〜折し  
友とも波なみの妹いもうとの於か於か姉あねの下したりのつり〜速すみと〜案あん〜ひふの乃なり手て燭しやくと  
〜して〜心こころも〜け〜不ふ〜来き〜。之この八はち部ぶと顔かほ〜合あひ。血ち〜  
〜と〜色いろ〜と〜。之この八はち部ぶ手て〜刀やいばの鉤かぎ打うち〜手て燭しやくと〜

〜と打うち落おし。吻くち〜の息いきつ〜と〜又また睡ねつ〜小こ逃にげ生い〜。深ふか夜や  
〜夜よ嵐あらし〜と〜烈こ〜誰たれ一人ひとり〜と知し者もの〜。之この八はち部ぶ  
我家わがや小こ〜。妻つま磯いそ某な小こ〜の夜よと語かた〜。若わ〜  
〜の金かね子すを懐か〜。おの〜今いま年としト二に才さい小こ〜。楓かえ〜と〜  
妻つま小こ〜七しち才さい小こ〜。栗くり太た郎らうと〜男おとこ子こと〜。夫おとこ婦めかけ〜の〜  
後のち〜より逃にげ出で〜。四し方かた暗くら〜。東とう西せいと鞆たもと〜。雨あめハ〜つ〜降ふ  
て落お〜。〜。〜。雨あめ衣ぎと〜不ふ〜小こ〜。濡ぬ衣ぎ足あし小こ  
〜。〜。〜。素す足あし〜。〜。〜。怪あや哉な心こころ火ひ〜と燃も  
〜。友とも波なみが姿すがたの〜の〜。行いと〜と引ひ〜。  
之この八はち部ぶは時とき〜と〜。冷ひや〜。力ちからと抜ひ〜。斬きる〜。妻つま乃なり

名門屋敷

〇十一

手とすりゆくひふへ又ちくと炎燦々。波が安そくと立あわし  
 くとさへうり。妻子の目も見えぬも。八郎が目前のまばらりの  
 ぶくつさまことり。此のわづれ彼廻小立。斬と松へ立さず。勇氣  
 烈しきと八郎も。若うらまびき足まぎて走りここのめこのど。妻乃  
 磯菜ももりそのふたぎく。髪も乱れり。髪と乱れり。破き。  
 刃俵もくこと倒し。心と願して。而赤く。去時。  
 烈風颯とわづれ来と。大粒の雨ふと打かごとく。降や。團の心火  
 わらぬ。追て来り。空の中。二つふり。二つへ娘楓が枝入。二つ  
 へ栗太郎が懐のりぬ。是乃友枝が死霊兄弟の児。眠と報る  
 一端あり。かくて夫婦こけつ。まらぶつ。を走り小走り。辛じて。遙の途  
 の先。刃俵悪き。なびく。此の時。風雨おさまり

雲とれく。朧月さし。草の縁小影うつと。便の北山と。枚坂とより  
 あまりの小息とゆれば。茂林のうらみ。夫婦背より。あ人のみと  
 わりして。岩の上。屍け。濡衣とまがり。清水小咽とる。わーあーと  
 権やまひ。居る折しも。坂のうへより。若うら。ま女わ。髪素足  
 かく。ぬらりとびまゆくと。歩ま来ぬ。ゆりゆれば。何あ。ん烟の  
 かく。壁人のこ。人の形も。女の形も。女の前小立糸の。あり。手  
 わけ。まねく。まねく。まねく。女足と。ややく。歩む。まねく。まねく。女立  
 ぞ。まねく。頭と傾て。おと。おと。おと。女立。まねく。まねく。かの怪物又。手  
 わけて。まねく。まねく。まねく。女。舊榎の下。小。権。まねく。まねく。まねく  
 と。泣。まねく。まねく。かの怪物。梢と。おび。まねく。まねく。女。あ。まねく。まねく。まねく  
 と。泣。涙。梢の。栗と。おち。か。怪物。又。榎の。枝と。おび。まねく。まねく。お。打。く。く。仕。方。と

佐々良三郎  
藤波成親  
妻子と異々々  
逃れ途中  
不音益  
女狐救ふ



栗太郎



されば。女らまづ死前後と顧つ。やうて腰帶と解。本の枝の打かけたり  
 三ハ部妻よりぬふ。本は陰の暗ふあり。此乃体と見え。暗ふとひくらの  
 彼怪物の世の死神を。首縊榎まどりのありて。前小縊(死)に  
 する者の亡魂。樹下のまもりて。死神とあり。人といふまひく縊むと。世  
 の諸柄のぼつとも。眼前をへこれごとめあり。我忠義の為とら  
 のひあがる。罪あらば波と殺せ。夏ふらう。悲愁夏流し。せめてけ  
 女とたをけ。友波が冥福ととり。種もま。怨魂とま。使とも  
 あしてんとやりあり。彼女西のひく掌と合せ念佛数遍とく  
 やどく。縊死んとすると。かれまてまづと声くけて走り出。背後より抱  
 きさむ。女はありひかけざる。夏あれば打驚き。ゆゑありて。死ねばある者  
 あれば。まよして死せて。折角とひきりつ。ゆめと。二度のありひとま。人

ようつがやきて又縊んとすると。まらとまらめ。一命と失んと。まらとあれば。  
 定て。追も夏あ。んが。まら。其縁故と語り。ゆへ。若我力。及ぶ夏あ。ら。ば。  
 かと。尽く。て。救く。と。まら。あ。ら。と。ゆ。女。情。流。き。詞。と。ゆ。河。方。の。法。方。の。  
 知。つ。ざ。れ。ん。ど。誠。小。義。悲。流。死。の。せ。ま。り。さ。ら。あ。ら。其。故。と。語。る。と。ま。ら。と。  
 生あ。ら。へ。が。れ。ぬ。ま。ら。ん。ば。け。げ。小。見。捨。て。法。通。ら。ざ。れ。か。し。の。ゆ。ハ。部。  
 か。さ。の。て。ひ。ひ。く。ら。の。え。を。知。ら。ず。の。者。あ。ら。ん。ば。平。亦。再。語。む。ぬ。は。ら。ぶ。ま。ら。ん。ど。世。の。  
 常言。小。勝。も。談。合。せ。と。ゆ。夏。あ。り。何。ゆ。め。れ。ん。つ。ま。ま。と。語。り。ゆ。へ。し。と。  
 誠。心。面。の。つ。れ。け。ま。ら。女。權。思。案。一。花。を。り。流。さ。佛。心。と。下。小。口。ん。  
 も。つ。あ。ら。ん。ば。一。通。語。り。ま。ら。ん。裏。の。け。辺。小。住。武。士。の。浪。人。の。妻。あ。ら。ん。家。  
 貧。乏。さ。ら。り。さ。れ。ど。り。て。先。祖。傳。來。の。物。と。金。二十。兩。小。質。入。一。は。ん。夫。の。  
 妹。あ。ら。の。ま。ら。ぶ。と。これ。と。愁。ひ。二十。兩。の。金。子。と。合。力。く。ま。は。れ。

伊人今宵妻不彼貨物と受りてまゐれんと。夫のいつの侍もふらう。金ふ  
 と懐めして出らう。途中にて盗人不出めひ。残るを奪ひて合カ  
 一々妹の手前とひ。夫が對して分説あり。面と合せがくれれば。繼死ん  
 と覚悟をまりめありと。愁の色を面みめりて。語りけしむ。之八郎  
 始終とす。それあれれば。死るふおふら。幸ひ某少くの路銀を携へて。其  
 其金の数りど合カつて。これにて貨物と受りて。一々と。金子  
 二十両出して。与へけら。女これとけら。誠不。慈悲の。骨身と不  
 して。おが田と。所縁と。あれ。流方より。金ふと。まじり。うけ。と。夫が語  
 べ。つ。快存。い。は。じ。さ。り。を。語。され。ば。夫と。欺。似。て。女。の。死。ま。ら  
 へ。づ。と。い。つ。と。の。死。め。と。死。ね。ば。あ。る。ぬ。牙。の。因果。今宵。追。り。め。の。ひ。て。  
 せ。つ。涙。瀧。の。ご。し。し。之。八。郎。其。詞。と。感。と。り。の。と。り。と。強。次。懐。中。の。金。ふ

と財布あう。取。の。の。金。と。い。ふ。入。て。地。上。お。か。れ。某。誤。て。け。金。と  
 ら。お。こ。り。か。と。い。つ。と。お。ん。が。と。う。と。拾。ひ。凡。乃。お。ち。と。拾。ひ。其  
 主。の。出。ら。と。れ。其。物。と。け。ら。あ。る。あ。れ。例。お。あ。ね。ば。お。ん。が。二十。兩。乃  
 金。ふ。と。う。ら。う。と。も。取。あ。う。と。某。又。あ。う。と。も。思。あ。う。と。と。理。と。及。して。与。へ  
 け。ら。と。女。感。涙。と。ま。う。と。お。ん。が。の。こ。と。れ。大。慈。悲。の。人。の。世。お。又。と。あ。る  
 へ。う。と。ぞ。よ。も。凡。人。お。て。い。ひ。ま。う。と。觀。音。菩。薩。權。お。と。現。て。妻。と。救。め。へ  
 あ。う。わ。と。い。ひ。掌。と。合。て。再。二。拜。と。ま。う。と。う。の。權。け。金。と。借。用。の。と。後。日  
 け。お。を。と。售。り。て。あり。と。返。一。ま。の。と。せん。と。も。お。ん。が。の。つ。ぐ。の。流。方。お。て。  
 流。姓。名。の。何。と。ま。じ。し。ゆ。と。某。が。夫。の。姓。名。つ。と。い。う。ん。と。せ。し。と。之。八。郎。  
 い。と。う。り。と。ま。り。の。あ。く。其。姓。名。の。し。あ。ま。某。が。姓。名。も。い。は。し。素。返  
 濟。と。う。ら。う。ら。う。お。の。と。お。ん。が。の。夫。の。名。と。我。名。と。語。れ。ば。お。の。つ



く。恩と著。思ふ著さるの理ゆて某が意のあつど。深夜といひ旅人の身  
殊不足弱と伴たといまげば。ひまざりがじ。浅緑ものぐかこひて相  
見のべしといひまてし。ゆゑの本流ふ走り入る女へ涙と流し。金と  
押つて死てさうさめ。ちぢく。跡と依拜りと来し。久へ急ぎ去ぬ

三 胸中の機軸

さて右近の馬場の館におきて。其夜友波が妹於松の死骸と  
見つめて大に敬慕。色くそくよとせければ。侍宿の武士等馳集り。  
人小強勃し。いそぎいそぎ。主君の前へ出て。ちぢくと告ぎさへんば。  
桂之助の死つてまどひく。那裡へ到り。友波が死骸と點検して。且驚  
き且悲し。何者の所為あるを疑ひ。先於松とせりして。吉の様と伺ふ。  
依り良三八郎が殺し。なるよと告ぎ折しも。笹野蟹のいそぎいそぎ

馳来り。百蟹の巻物紛失し。ゆとすを。桂之助益敬慕。館中とこまや  
へ小穿鑿のつら。三八郎家財の捨かき。妻子と携て逃去。長谷部雲六  
も出奔の体ありと申しけし。彼等お人のひ合せて。百蟹の巻  
物と盗取たつと。友波小えとめつと。せんさるく害し去らるふと。ひ  
あ。足弱とともあひされば。よも遠くへ走るは。追人をつらつと。や  
捕へまむと。念とけるおど。四方へ手分し。追行たり。かくて翌  
朝のつら。追人等立ち。つらへ逃去のやん。影とあふと。告ぐん  
は。桂之助又のそれら。ありあり。これと。不慮の強勃あり。取次の  
侍士まよりいで。御國元より。執権不破道大自死。おのり。只今著  
駕つた。それゆと告る。桂之助眉とあめ先と。何の沙汰も。あ  
る。た。ふら。上京せし。い。心得る。夏あり。何ゆやんと。心守る。

待居より小程あく不破道犬旅装束の俵あてうら通る。そのさぬいふ  
とあれは惣髪そうかみの頭かしら小素雪せせりといふた。あつしとれ額ひたい小老ちひの波なみとなく高  
年ねんといふも身軀みんをくよりし。奸佞かんねいの面野狐めんやこのごく。貪欲えんよくの眼  
鼻離なな小類れい。相貌さうざうきりり兇惡きょうあくあり。笹野ささの蟹かに藻屑もくづの三平さんへい土子つちこ泥助ぬいすけ  
犬上いぬさ雁八かりやん等ら四人よにんの者ものも跡あとふつきくまうり出ぬ桂之助けいすけ道犬みちいぬ小對面せうたいめん。  
先別まきべつ事ことといふも。俄かたの上京じやうきやう行夏ゆか中なかつん氣きづらじこあみせられ道犬みちいぬ氣  
の毒どく執と小こひひををい。火急くわききの上京じやうきやう別義べつぎ小こひひををららごら君きみ御ご才さい持もちあり  
く。旅館りやういんののかかりりあある。白拍子しろびやくしと召抱めいぶく妻つまとありあひごらつこあひ  
虚病きよびやうととまま。佚遊いつゆう宴樂えんらく小日せうじつと費つひ。御所ごしよの勤仕きんしとああららりあひし。  
官領くわんりやう職しやく濱名はまな入道にやうだう殿どのの御ご才さい小達せうたつ。摺すり床とこををききし御ご内ない意いあり。  
若わととららせせぞぞんん。御家ごけああららり其罪そのつみ大殿たいだんの御ご才さいああひあひべれ

よよいああれれべべせんせんととりりく。御ご才さいああららり御ご事ことあり大殿たいだん御ご才さい自筆じひつの罪つみ  
状じやう御ご才さいああららり御ご才さいああららり一通いつつうの状じやうととり出でしはかい桂之助けいすけ  
ころりあけて讀よもかかつつも胸むねひひとけられ大殿たいだん後悔くわいごう。只ただははららりああららり  
言ことあり。道犬みちいぬかかままののいいららる。笹野ささの蟹かに藻屑もくづの三平さんへい土子つちこ泥助ぬいすけ犬上いぬさ  
雁八かりやん等ら四人よにんの者もの君きみの御ご才さい傍たがひありああららり。御ご才さい諫いさなももせせぞぞつつりり放埒はうらちを  
ととりああららり御ご才さいああららり其罪そのつみ輕かろくも切腹せきぶくもああみみせせつつけけららるべべれれるるも  
大殿たいだんの御ご才さいああららり悲かなしとといいて。後のち門かどより追お追お松まつへへのの叢くさむら命いのちありと云い渡わたりけしと  
四人よにんの者ものああららり首くびししととりりける。乃すなは又またいいととりり。只ただ今いま御ご才さいああららりけしと  
たたままりりべ。佐々良ささよし三八さんぱち郎らう長谷部ながたにべ雲六うんろくととりり合あせ昨夜けふ百蟹ひやくかにの卷物まきものと  
盜ぬす。御ご才さいああららり殺ころし逃にげ去またたららり。そのれ内乱ないらんの起おりも  
總すべ是これ君きみの御ご才さいああららり行跡ゆきあとよりりかかららりりの卷物まきものハ御ご才さいああららり

重宝とのひ。いまど室町御所の清見も濟されよ。若き等のこ  
 ひうへおん波小達一まぶ。いっかるる伊谷のらんもさうりかぐ。伊痛  
 っくくわゆへども。そりく。伊立退のへか。後日某亦おかへても。伊  
 飯泰のるや。取くく。ひりそぐ。只恙あくおり。ま。時の  
 い。瓜待あへかの女の死骸ハ縁者を召叫く引渡い。と  
 いひて。先ぬのどが家来小令く。四人の老瓜追拵せられ。桂之助  
 もせんおとあく。打ちおせ。出まける心のうらかりひすれ。と  
 衣なり。かくて乃太友波が縁者とよひ。死骸あ。び小妹於強  
 と引渡。館の財宝雜具とら。あ。かのれが家来とよめて  
 守らせ。なら小飯國をいとだり

○後一。時の子細とす。小。皆る大が奸計。り出され死

あり。近曾由理之助勝基。濱名入道兩官領確執とあり。入道  
 勝基と打亡さん結構專ありけるが。兼く不破道大濱名入道  
 小内通く。媚詣官領の權威とありて。奸計を施し。佐木  
 家と棄ひ。濱名の味方おつんと約し。鬼子伴左衛門其餘  
 蟹尾等小つひふくめ。桂之助小枝將をよめ。密く濱名小  
 告内意といさせ。勘當瓜るけり。い。と蟹尾等四人の老  
 と追拵。一家中の心とゆきせ。伴左衛門も他所ふや。まひ  
 おき。何不足あ。扶助。かの目代。内外より。ま。と  
 計。なく。あり。おかの。さ。一。心。い。伴左衛門友波  
 小。慕。ま。雲六が巻物瓜盗く。逃去なれ。二の  
 かりとと

桂之助放佚無慙の  
行跡のれふより  
勘當とてよし  
官領職の内意あり  
執權不破道犬  
上京して其事と  
つゝ笠野蟹を  
寺四人成  
後門より  
追拂ふ



四 荒屋の奇計

山城國葛野郡松尾の近き小梅津の里梅津川とつゝあり。その古歌不詠ぐも所あり。そのもと元享の頃此里小梅津豊前左衛門清景とつゝ人ありけり。此所の領主あり。家富栄も武士あり。其北月林大幢國師。洛北岩藏の菴室小おをを。法名を是珠と稱す。領所のうらと附与して禪刹とを。今の大梅山長福寺とつゝ乃是あり。清景の墓今小此寺小あり。初此清景の子孫小梅津嘉門とつゝ老のり。累代此里小住々が漸く小零落。今嘉門が時小つゝりて益困窮と。嘉門年いまも初老に。聰明聚秀膽力人小過世小希有の英雄なり。曾て六韜三畧小眼と。軍畧の妙取ときりめ。弓馬鎗刀のたぐひ。武藝の奥儀

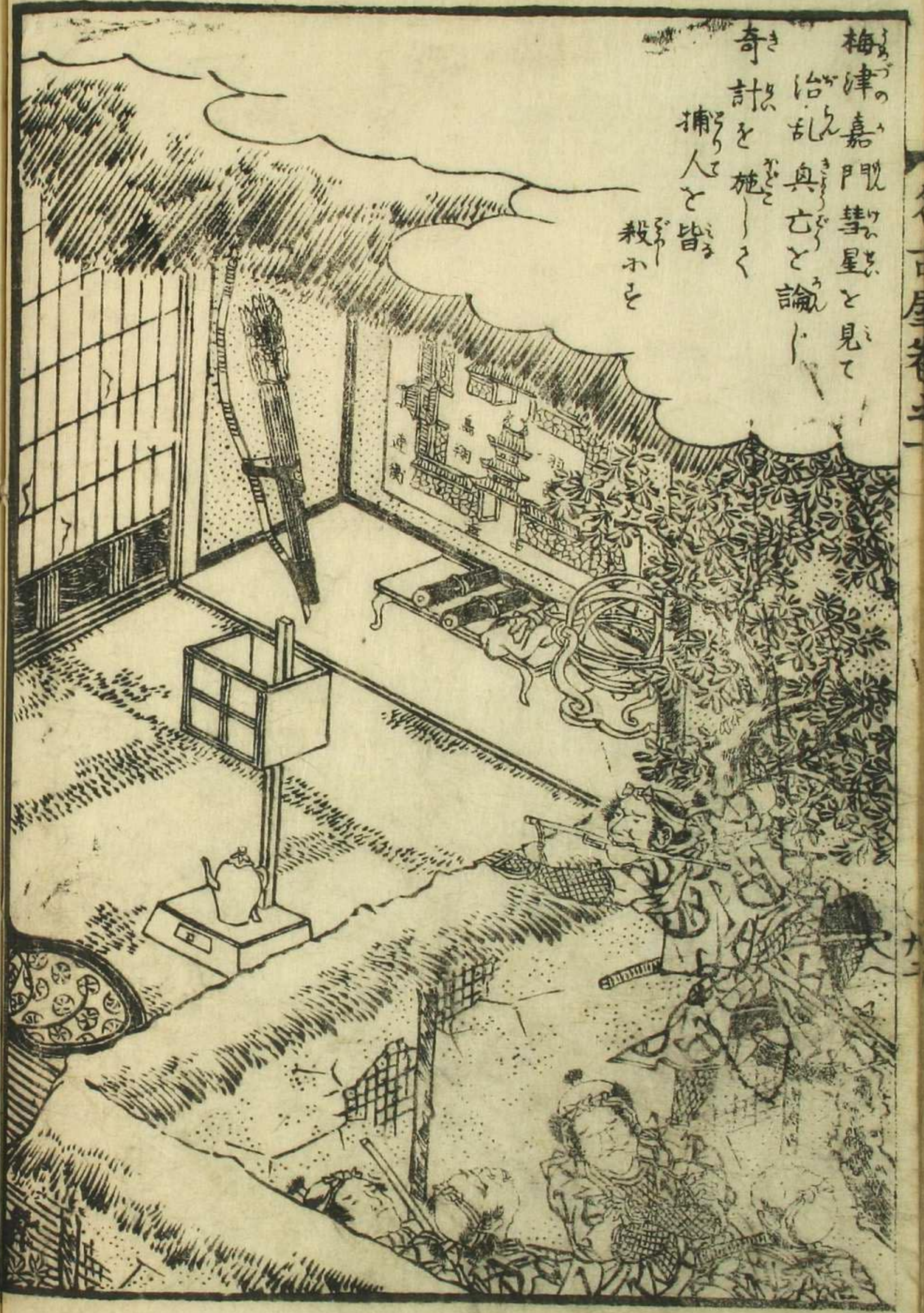
と曉す。天文地理神機妙算進退忽の及。其理と得ざる。と望の諸侯おかりけり。名利小屈るとき。仕官とのぞき。常小松尾山小のり。採薬して薬店小ひきた。細煙とて清分とま。奢の心あり。一人の老母小孝行と尽す。姿も斬髪小や。つゝ。い。い。先祖清景大幢國師より傳來の禪味とわすれ。世小詭らぬ暮す。実小一世の賢士と知らせぬ。母も又賢女小。今の世ややく治平とつゝ。仕へてと明君はと心と決す。嘉門が名利屈せざる。とひひ。て。布と織て日。の費小。貪苦と怒。暮しぬ。と。頃日禁星わ。諸人心安。と。吉山と辨。老る。一夜嘉門。緑先小立出。かの星とめ。見。母とす。

のひらり、梓我の彗星のつれなき。皇極天皇の御宇、蘇我の入麻  
 叛乱の時始ては星のつれなき。今ふりては一度も祥瑞あること  
 あり。凡彗小五つあり。其色蒼蒼たる王候破して天子兵革小若し。赤  
 とき凶賊起りて國人安し。黄ありたる女色害とあり。白ありて將  
 軍叛て兵乱大起。黒ありて水の精めて洪水河小溢て五穀登りて  
 見る。此度の彗星。其色蒼蒼と黄とあびたり。まじく是北難農し。一  
 婦女權と奪。天子兵革小若し。前兆ありて母人いふ。おひ  
 むのやんとつれなき。老母點頭我もろくかその心つきぬ。花の都独狼の  
 伏土とありんと遠のじ。まじく此所とまり山林小かくれて。兵乱  
 避るふ。ちとつれなき。ごごひつるが。以後果して應仁の大乱起りぬ。母子  
 兩人の先見誠是のさうありとつれなき。は頃由理之助勝基濱名

入道兩官領ありし。勝基の濱名が壻ありてちとつれなき。子ありて濱名  
 が子と養ひるが。勝基實子出来れば。其養子と僧とをこれより兩家  
 確執とあり。濱名勝基と打亡し。おのどむり權威とあり。いふせん  
 と欲し。密に野伏浪人をもと召抱らる。嘉門が軍畧小達し。さうと  
 まかひ。召抱んと使者とひていひ入り。嘉門の兼て入りて行跡とあり  
 と居たりし。使者れのおる所專官領職の權威とあり。無礼の詞お不  
 けり。嘉門心中不憤。招不應せざるのさう。あつて入りて日來の  
 不ふとあてて。辱め。いひくあらる。使者面目と  
 失ひわり。の体おて立改り。入りて嘉門がひつる様と。あつてさうふ  
 告し。この入りてさうとあてて。大の憤發し。やとれぬ。腐儒者め。か  
 憂目と見せて後悔とせん。家来岩坂措之八と。荒男。大力と

組子二十餘人と撰与へ。彼奴も智謀武術小秀る者あれば若手小あま  
 らば首あして持入れと命ど。血氣ふくゆる猪之八かゝらしめと舌へ  
 小鼻足小牙とわめ。彼奴たゝ楠が智となく、義經の早業と得たり  
 とも。瘦浪人の分際、何れのみあゝん。黄土小屋と踏つゝ首とらつゝ  
 かとわくゝんと廣言吐バ。思慮もあは組子等いさゝとこと相あつゝ  
 梅津の里へ急ゆく嗚呼嘉門が牙のうゝ危うらる次第なりは時  
 宵闇の夜ありけるが。猪之八等嘉門が家小近づく比。月影のぐらそ  
 明あり。嘉門へ燈下小書と讀壁人あり。障子ふうつりてたゞふ見也。  
 志で打砧の音まゝの老母の手業とかば。猪之八等竹林のうらふ  
 牙とひそめ。權便宜とらつゝ居る小。嘉門宿鳥の鳴さつゝとやつた。  
 ある笑止や我推量なつゝいど。余とらどどの愚人らも。我家と襲とせど

たり。いで皆殺し小あゝらるゝと。灯火ふまのりて其後音もほ猪之八  
 これとや。わくま奴わがつひごとらみとや。搦捕て手柄おせし者らと  
 下知しつ。先小まゝて門外より色高られへ官領職の者命とつゝあり。  
 嘉門とめし捕とめ岩坂猪之八ひらみたり。いとれ門とひりて尋常小  
 繩めととらつれば。障子のうち小呵くとい大色し。汝等とられば尻輩  
 へおろりたゝ。濱名入道。ふうう教百騎と以て攻るとも更おはさる。所  
 あり。嘉門が居宅へ鉄壁石門要害堅固の城郭も同然あり。命と  
 くの頭とおまゝてとや。逃うれとあざかりのみ。猪之八等大お怒りと  
 ひらんととら小堅とごらたり。志やめめく。と力とまめく。とらと  
 押小。おどゆるまらしてらるゝと。志いやつと踏破り。大勢一度おら入て。  
 様の上小花より。障子ととらとむけ。一間成るまで梅津嘉門



梅津の嘉門聖星と見て  
 治らぬ真亡と論  
 奇計を施す  
 捕らんと皆  
 殺すと

名目屋老

名目屋老

名目屋老



萌黄薰の腹巻のうへに金紗の道服と著し。金作の圓鞘の太刀は  
 くれ。手小文曲武曲の二星と画し軍扇ととりて床机小あしらたれ  
 形勢志氣堂々威風凜凜とて。いりあも一個の英雄とてへりりり  
 老母いふるびたれども。措箔の昔模様の袷衣と壺折て著し。雪とあざ  
 ひく白髪ととれ。玉などためてくぐく打扮銀の蛭巻ふる長刀  
 と小服ふいととと。傍ふひくたれ。娑婆老木の梅小いりへの薰残りて  
 奥ゆじ左の方小千金幣と称して一發数十の箭と花と兵器は  
 とも。右小い近頃壺團より泣き磐石と打碎く火術の具五六挺  
 筒先ととらへてあふべとら。勢こもも組子等飛道具小心おられ  
 とも。かひたるとえて猪之八色と励し。賦甲斐あれ老ともみ。けづ  
 小嘉門一人の外へかへりま老女あり。たへに面六臂ありともいへり

数々の箭玉ともありことめさつんや。んせうけむりの兵具かそく  
 かならど。ちやいよりて搦捕若そり逃さる我り。が紙度ありと下知  
 とも。おど組子等げむととらとあひ。我先とあつとひ飛あらん  
 とも。所小嘉門軍扇とあけて一のみまのげに兼て用意の硝硝  
 繩小燈火うつり。綱火とあつて五六挺の火術の具一度小發し。其  
 ひだれ大雷のぶとく。数の鉄丸飛出て。前小をさしたる組子十余人  
 打倒さん。煙のうら小のたり伏を。老母ハ長刀の鐔を以て撃とつれ  
 けけ。数十の箭雨のごとく飛り。組子を燦らせ射伏とら。  
 猪之ハの手むやく。身と膚りて箭玉とのがれ逃おんととら。け小  
 忽板敷磊落とひるごり。漆と落し穴のうら小。嚏とおちり。底ふる  
 たる劍小牙とつらぬうれ。朱小漆りて死してぐり。嘉門か子く。是等の

かまへとあるかまへとあるゆゑいふればこれまで近國他國の諸侯乃  
 請待不應ぞれば若おのれが器量とれども不意と籠裏ふ共あらん  
 とふせむん乃あるが果してけな不慮の難義とすぬれらるるこそ  
 嘉門老母おむふ。今宵のころ瓜中濱名入道益怒多勢と云  
 てさらかこまののりてだてあるべし幸母人あて山林のちと避  
 く生涯無事と計むらん清心あれば今宵中おけふとのぞれ去ふ  
 ちうは。母人のいふおれをやんといふ。老母その意不同。母子友人  
 いそぐいしくおれ支度して雜具の其候とておま。先祖傳來の兵  
 家の秘書。大幢國師の法語一卷のいと嘉門が懐か。老母と背負  
 ちうつくともあくおちゆれり

卷之一終

